

北広島市 水道ビジョン・経営戦略 2021-2030 【概要版】

第1章 改定の趣旨及び位置づけ

第1章では、水道ビジョン、経営戦略とはどのようなものか、改定の趣旨などを説明しています。

- ◆ 水道ビジョンは、50年後、100年後の水道の理想像を具体的に示す計画
- ◆ 経営戦略は、水道ビジョンで示した理想像を実現するためのより具体的な経営計画
- ◆ 本改定では、合理的・効率的な運用・改定のため、水道ビジョンと経営戦略を統合

改定のポイント

- ◆ 国の新水道ビジョンを踏まえた新たな基本理念や理想像などを設定
- ◆ 事業環境の変化を反映
 - ボールパーク開業、北広島駅西口周辺エリアの整備、新型コロナウイルス感染症の影響など
- ◆ 市民アンケート結果を取組事項に反映

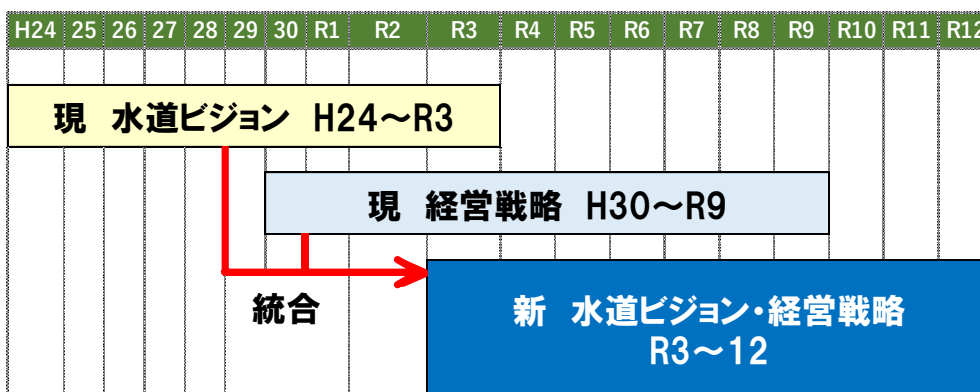


図1 水道ビジョンと経営戦略の統合

第2章 水道事業の現状と課題

第2章では、北広島市水道事業の沿革や現状を示すとともに自己分析し、今後の課題を見出しています。

- ◆ 耐震化実施状況や経過年数、管路更新率などの指標により施設の現状を把握
- ◆ 経営指標により経営状況を分析
- ◆ 人口減少に伴う料金収入の動向を把握

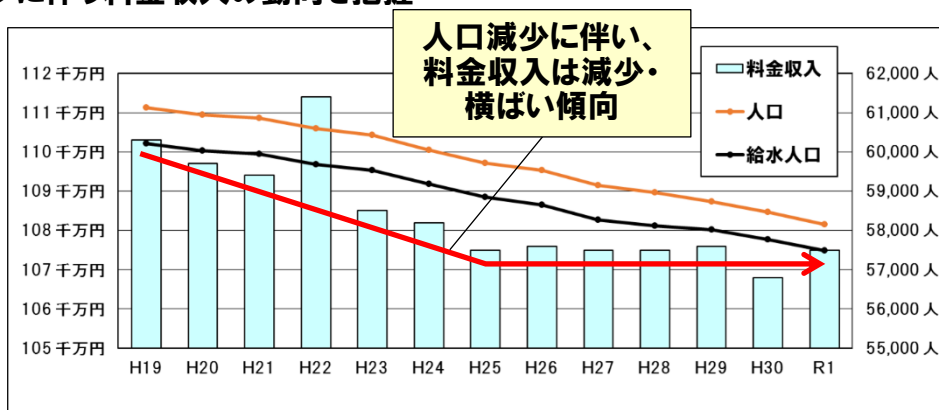


図2 料金収入と人口

◆ 水道事業の課題

- 老朽化対策、災害対策、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上、広域連携など

第3章 将来の事業環境

第3章では、経営環境に影響を及ぼす事項の把握と予測をしています。

外部環境

- ◆ ボールパークの開業、北広島駅西口周辺エリアの整備
 - 球場やホテルなどの整備に伴う水需要の増加
- ◆ 新型コロナによる影響
 - R2年度の水道使用量について、家庭用は増加、事業用は減少
- ◆ 北広島市人口ビジョンを基にした給水人口の推計
 - 給水人口の減少に伴う水需要の減少

↓

これらを考慮して水需要を推計

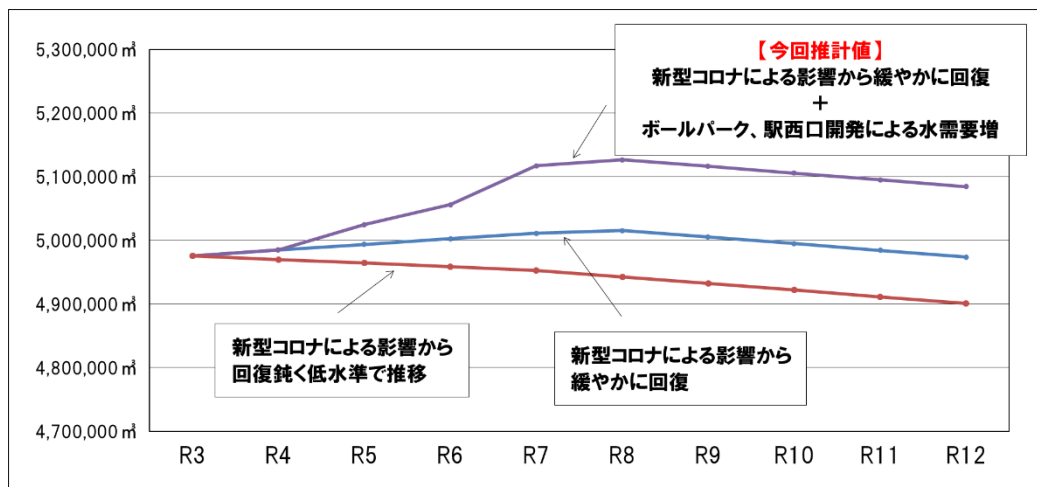


図3 水需要の推計

内部環境

- ◆ 配水管、配水池、機械・電気計装設備について、将来の事業環境を予測
 - 配水管については、今後、法定耐用年数を超過する管が増大
- ◆ 資金の確保、職員数・知識・技術の確保についても予測
 - 経営面での対策、人材の育成、投資の平準化などが必要

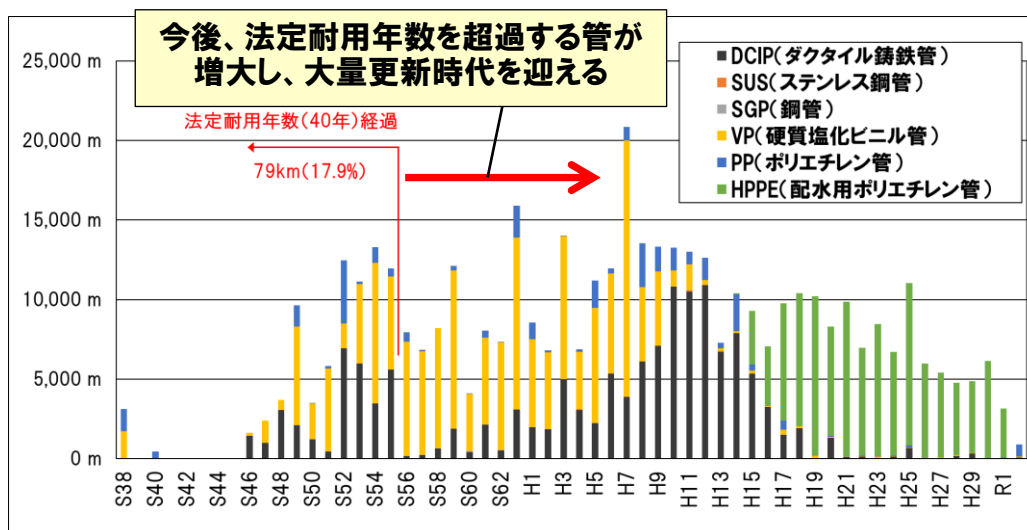


図4 送配水管布設の推移

第4章 基本理念・理想像・施策

第5章 計画期間における具体的取組

第4章では、現状と課題を踏まえ、将来にわたり市民と共有できる基本理念、理想像などを示しています。第5章では、理想像の実現に向けた計画期間内の具体的取組を示しています。

表1 基本理念・理想像・施策と主な取組事項

基本理念	安心と信頼を未来につなぐ北広島の水道
-------------	---------------------------

↓ 基本理念を設定し、「安全」、「強靱」、「持続」の観点から3つの理想像を設定

	安全	強靱	持続
理想像	北広島の水道は いつも良い水 清い水	北広島の水道は いつも頼れる 強い水	北広島の水道を 未来へつなごう いつまでも

↓ 理想像を具現化するための施策を設定

施策	<ol style="list-style-type: none"> 1 おいしい水の供給 2 給水設備の適正管理 	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設耐震化の推進 2 老朽化施設の更新 3 危機管理体制の強化 4 応急活動体制の強化 5 災害時の情報発信 	<ol style="list-style-type: none"> 1 財政管理・健全経営持続 2 お客様サービスの向上 3 職員教育の充実・技術継承 4 民間活用・広域化の推進 5 環境保全への貢献
-----------	---	--	--

↓ 施策を踏まえた取組の設定

主な取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ・水質検査・結果公表 ・指定工事事業者の情報公開 ・貯水槽管理者等への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・西の里配水池耐震補強 ・基幹管路の耐震化 ・老朽管の計画的更新 ・配水池機械・電気設備更新 ・関係団体との災害時訓練実施 ・災害対策計画等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略の適正管理 ・遊休資産の処分推進 ・水需要増加に向けた料金制度 ・広報誌などによる情報発信 ・インターネット受付実施 ・多様な納入手段の導入検討 ・計画的な研修会参加・内部研修 ・関係団体との広域連携推進
---------------	---	--	--

第6章 投資・財政計画

第6章では、第5章の具体的取組を進めていくための今後10年間に必要となる経費と収入の見通しを示しています。

- ◆ 投資の経費として、配水管や配水池、機械・電気計装などの更新・耐震化の事業費を計上
- ◆ 投資以外の経費として、職員給与費や修繕費、受水費などを計上
- ◆ 投資の経費の財源として、企業債や国庫補助金などを推計
- ◆ 水需要や給水件数の見込みから、水道料金収入を推計

◆ R10年度以降は赤字となりますが、現行の水道料金水準により経営を維持できる計画です。

表2 経常収益、経常費用、純損益の推移

単位：百万円

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
経常収益	1,282	1,267	1,284	1,285	1,309	1,311	1,303	1,304	1,301	1,305
経常費用	1,267	1,218	1,257	1,268	1,254	1,292	1,280	1,339	1,319	1,366
純損益	15	49	27	17	55	19	23	▲35	▲18	▲61

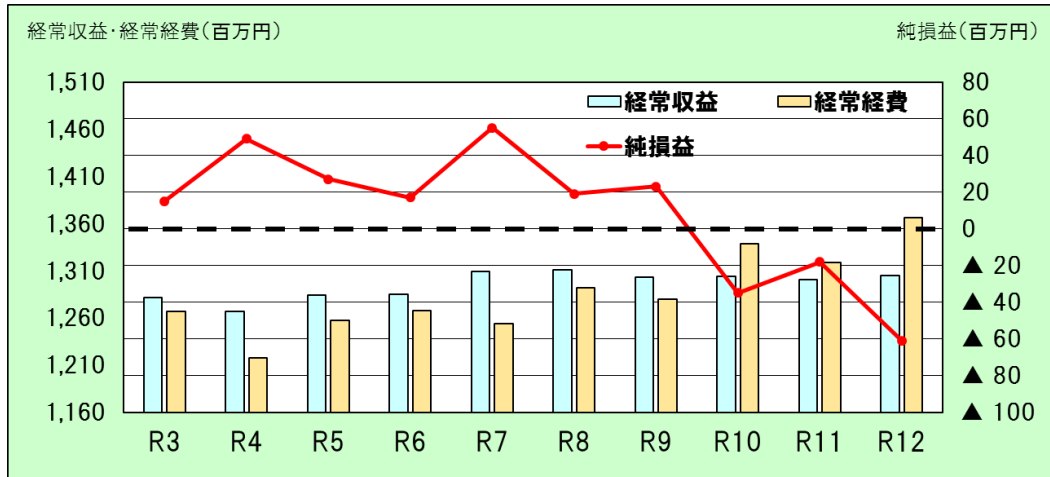


図5 経常収益、経常費用、純損益の推移

第7章 フォローアップ

第7章では、進捗管理や見直しの方法、時期を定めています。

◆ 進捗管理(モニタリング)

- 毎年度の決算状況から収支実績や経営指標による経営分析を行うとともに、理想像に基づく具体的取組についての進捗状況を確認
- 審議会等の意見を聴取し、次年度以降の事業運営に反映

◆ 見直し(ローリング)

- 3～5年ごとに水道ビジョン・経営戦略の見直し(ローリング)を実施
- 計画と実績とのかい離及びその原因を分析
- 「計画策定(Plan)－実施(Do)－検証(Check)－見直し(Action)」のPDCAサイクルを活用

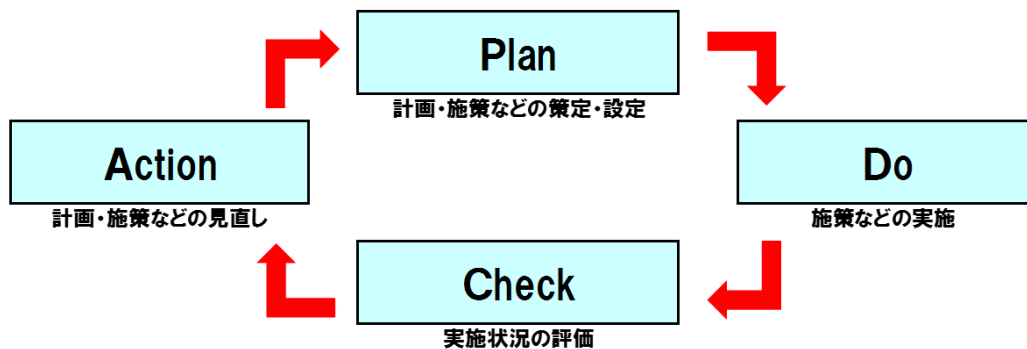


図6 PDCAサイクルによる見直し(ローリング)

